

令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会(東京) アピール

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

全国女性建築士連絡協議会は、今年で第35回となりました。女性委員会を立ち上げられました初代の女性委員長はじめ歴代女性委員長、連合会会長および女性委員会担当副会長、各都道府県建築士会会長と女性委員会(部会)、そして事務局など多くの方々のご協力とご理解の下に継続出来たことに深く感謝し御礼申し上げます。

同協議会では今年は、宮城県の被災地報告と、京都府と長野県より活動報告をしていただきました。私たちはこれからも各地での被災地報告と活動報告を継続して情報を共有し、建築士としてどのような活動が必要か、共に模索してまいりたいと考えます。

今回のメインテーマは、「未来へつなぐ『まち・ひと・建築』」とし、～対話から生まれるかたち～をサブテーマといたしました。今年の基調講演は建築家ユニット SUEP. の末光弘和氏、末光陽子氏より「対話が紡ぐ環境デザイン 未来へつなぐ風、光、熱のかたち」と題して、どのような対話を元に作品が生まれるのかをお話いただきました。二日目の分科会では、建築と経営・不動産のあいだ～私たちの職能をアップデートする～、建築教育の裾野拡大・次世代育成～人と人のつながりからの学び～、次の世代にのこすために ～後藤織物総合調査のこれまでとこれから～、「NPO日本バリアフリーコーディネーター協会」の活動について、鉄道好き集まれ! 駅舎の利活用から広がるまちづくり、災害に備えて建築士が今、繋がる、の6つのテーマのもとに活動報告並びに意見交換をいたしました。

それらの成果として、以下の点を今年のアピールとして発表し、発信してまいります。

1. 私たちは、今回の協議会を通し、建築士として、生活者としての視点から住まいづくりや、地域性を活かしたまちづくりを考え、生活に潤いを与える環境づくりを目指します。
2. 私たちは、今回の基調講演を通して、建築士として持続可能な未来の実現のために、豊かなまちづくり、空間づくりに取り組んでまいります。
3. 私たちは、災害報告等を通し、建築士として、被災者を思う心を忘れずに、継続して復興支援のあり方を模索し、災害時における支援活動に取り組んでまいります。
4. 私たちは、様々な専門分野の方々と連携しながら、建築士としての能力を活かし、安心安全な社会の実現のために日々研鑽してまいります。